

平成25年度 第27回 入学式 式辞



本校自慢の校門の桜の花も、今年は一足早く先日合格者説明会の日に、新入生の皆さんをお祝いするかのように一輪開花しました。

満開の時期は過ぎましたが、まさに春爛漫のこの佳き日に、大阪府教育委員会を代表して、(教育総務企画課 総括主査 朝倉一郎様)をはじめ、後援会、PTAのご来賓の皆様方のご臨席を賜り、大阪府立日根野高等学校第27回入学式を挙行することができますことは、学校にとりましても大変心強く喜ばしいことであり感謝に堪えません。高いところからではございますが、ご来賓の皆様方には心より厚く御礼申し上げます。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

「夢が、か・た・ち」になりましたね。本校のキャッチフレーズに「夢を形に」という言葉を挙げています。皆さんは、本校に入りたいという「夢」をもち、自らの意志で日根野高校を志望し、自らの実力で合格されました。今、皆さんの心の中には、さぞかし晴れやかなそして希望に満ちた思いで一杯であろうかと思えます。

これからの高校生活を送るにあたり、常に意識をして心掛けてほしいことが二つあります。一つ目に、「努力し続けることの大切さ」、二つ目は、「自己を磨くことの大切さ」です。

まず、一つ目に、「努力し続けることの大切さ」について。

今年度は特に入試制度が変わり、前期・後期を通して、志望校の決定については、随分と悩み考え抜かれたのではないかと思います。

そして「合格」という栄冠を見事に勝ち取るための原動力として、本校に「入りたい」という大きな目標があったのではないのでしょうか。言葉を言い換えれば「志」があったのではないのでしょうか。

「志」とは目標を高く掲げ、努力し、成し遂げることです。高い志とは、自分の力で目指すことができる「より高い目標」のことです。

たとえば、さまざまな資格を取得する場合、まずは三級・二級に合格し、そして一級に合格する。階段を一段一段駆け上がるように、着実に実力を身に付けて、上に向かって昇り続けることです。そして、合格すれば、また次の目標に向かって努力しつづけるという姿勢が大切です。

部活動においても、「優勝」という高い目標を常に掲げ、優勝を目指して努力し続けるという姿勢をもつことです。現に先輩たちは、文化部においても運動部においても、全国大会や近畿大会に出場を果たしています。このように、具体的な目標を掲げて、目標に向かって、努力を惜しむことなく、突き進むことが大切です。

努力精進することは地道なことです。地道な努力こそが、より美しく、より大きな花を咲かせることになるのです。詩人で書家の相田みつを氏の詩に、次のようなものがあります。

「花を支える枝/枝を支える幹/幹を支える根/根はみえんだなあ」

美しい花には、枝や幹や根の、目に見えない生命の営みがあるのです。根が栄養を吸収して、立派な幹を育み、枝を育み、花を咲かせる。根の営みの見えない地味な活動が、花にとっては欠かすことができない。根の営みのような努力こそが目標を達成するために大切です。

大阪府立日根野高等学校 (H25.4.8)

二つ目の、「自己を磨くこと」について。

高い志をもって、頭脳を磨き、心を磨き、体を鍛えつづけてもらいたいものです。経営学者ドラッカー氏は「知識は絶えず磨かれ鍛えられ、育まれなければならない。怠れば衰退あるのみ。」とっています。知識は、授業を受けたり本読んだりして、知識を深めようと努力しなければ、それ以上の発展はないのです。つまり、知識や技能は、磨きつづけることによって、その人の進化や発展があるというものです。

例えば、剣というのは、砥石にかけて入念に研ぎあげなければ、鋭い切れ味がうまれてこない、ということです。つまり、鋭い剣でも長い間、ほったらかしにしておけば、錆びついて使い物にならなくなってしまうという意味です。だれもが磨きつづければ、立派な人間に成長するということです。

「切磋琢磨」という言葉がありますが、「切」は、獣骨や象牙を切る。「磋」は、それをみがく（こする）。「琢」は、玉や石を鑿で形をつける（きざむ）。「磨」は、それをみがく（くたく）。つまり、象牙や玉を磨くように、自分自身で自ら、学問や人格の向上に努力することを言います。

このように、これからの学校生活において、授業はもちろん生徒会活動やクラブ活動の中で、何事に対してもつねに目標を高く掲げ、自助努力の精神を忘れないで、粘り強く挑戦し続けてもらいたいものです。

また、震災後、特に思いを強くしてほしいのは、皆さんにとっては、一日一日が平凡な日々であっても、不自由なく送れることに感謝したいものです。そして、学業に専念できることは、この上ない幸せだと思います。この幸福感を高校生活の推進力として、学校生活を充実させ大きく飛躍することを期待します。

さて、保護者の皆さま、改めましてお子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。今日まで限りない愛情を持って育ててこられ、時にはご心配やご苦労があったことと思います。お子様の高校生活が健康で有意義なものとなるよう教職員一同、教育に情熱を傾け邁進する覚悟でございます。私は、教育が人間を創ると信じている一人です。若い人たちに、夢とロマンと、精進、勇気の大切さを伝えていきたいと思っています。卒業までには、厳しいこと、つらいこともあるかと思いますが、そのような時、皆様方のあたたかいご支援ご指導が、何よりも生徒たちの励ましになると思います。生徒の皆さん一人ひとりが心身共に豊かに成長していくためにも、何卒ご支援を賜りご協力の程よろしくお願い致します。

最後に、新入生の皆さんに次の言葉を紹介して結びにしたいと思います。

「学校という名の花壇に生徒という種をまき、絆という名の肥料をまく。するとそこには、友達という芽が出て、親友という葉が付き、友情という花が咲く。」

これは、以前にある生徒から教えてもらった言葉です。

新入生の皆さんが、この学校でたくさんの友情という花を咲かせ、自らも高い志を持って自助努力の精神を磨くことの出来る高校生活を送られることを心から期待して、式辞と致します。

平成25年4月8日

大阪府立日根野高等学校長
牧野 浩二